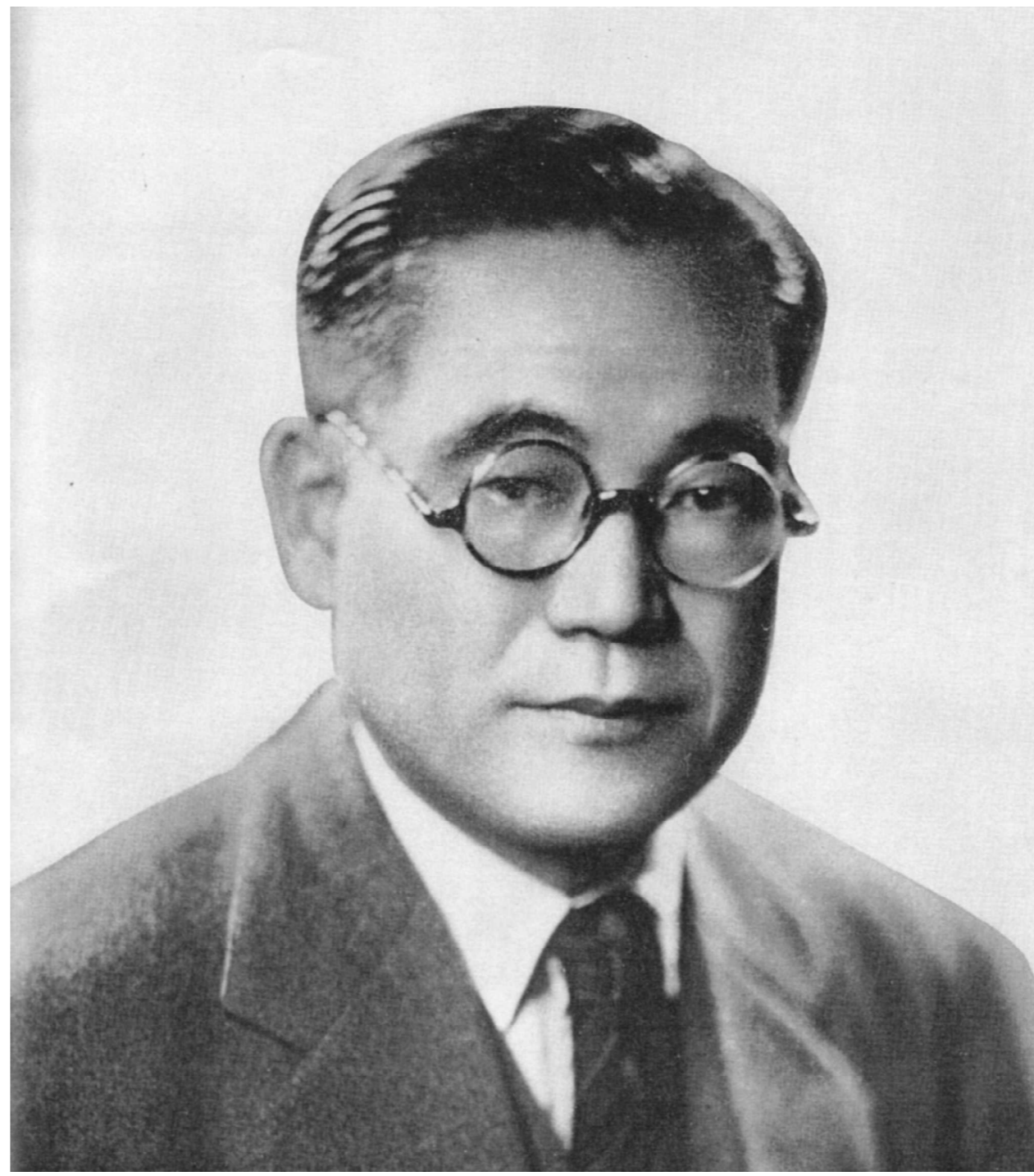


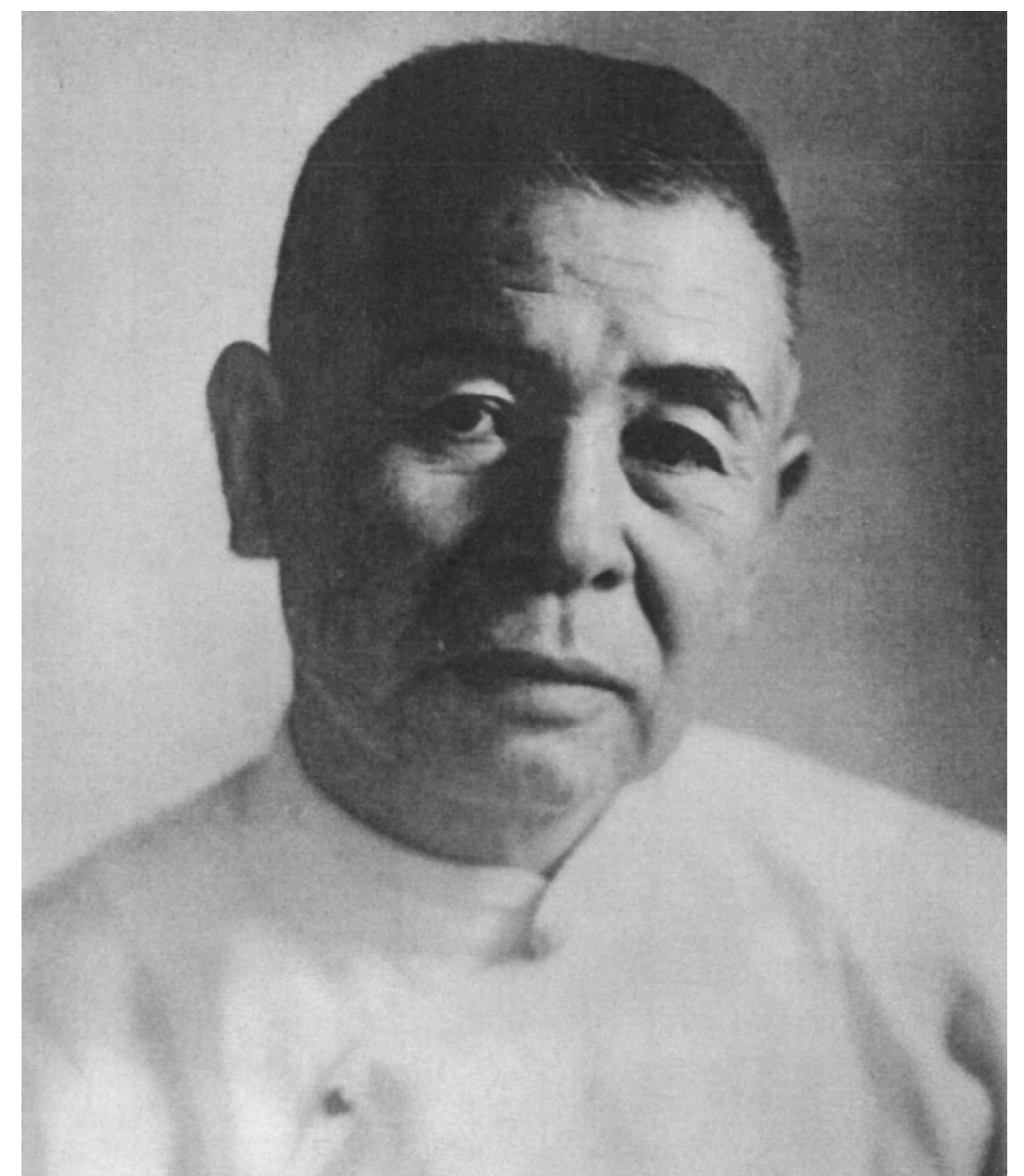
# トヨタ自動車の拳母町進出 ～ 論地ヶ原の選定～

愛知県西加茂郡拳母町（現豊田市）は三河地方の繭取引の中心地であったが、昭和不況で養蚕業が衰退する中、町長中村寿一は優良工場の誘致による町の再生を目指した。折から、1933(昭和8)年11月、豊田自動織機製作所から、拳母町下市場（通称論地ヶ原）の58万坪を自動車工場用地として買収したいと申入があった。論地ヶ原を選んだのは、自動車づくりに情熱を傾けていた豊田佐吉の長男、喜一郎で、名古屋からの距離も近く、敷地の横を三河鉄道や省営バス岡多線が走り、交通の便も良いことが選定の理由であった。

1934(昭和9)年7月、町と会社とは、  
①昭和9年9月までに拳母町内の用地50万坪以上を取り纏め豊田自動織機製作所に譲渡する、②分譲価格は坪あたり20銭とすることを、取り決めた。地主は180人に及び交渉は難渋し、一時会社から契約解消の話も出たが、中村町長を中心に町の工場誘致委員会が熱心に説得し、1935(昭和10)年12月、58万坪の用地買収が完了した。坪当たり30銭での買収となったが、超過分(7.7万円)は後の税金で賄うこととし、一時会社側で負担した。



豊田喜一郎



中村寿一



拳母町全図 1937(昭和12)年